

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和3年11月9日（火）各教室

1 単元名 「世界へ、未来へ、つなげよう！わたしたちと食」 ～食品ロスの問題を考える～

2 単元の目標

- ・食品ロスの問題について現状や要因を調べ、様々なところで解決に向け工夫していることを知る。
- ・食品ロスの問題が、自分、家族、地域の人、一人一人の考え方や日常生活における行動と深く関わっていることに気づき、学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。

3 食育の視点

- ・正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。 【食品を選択する能力】
- ・食べ物を大事にし、食料の生産等に関わる人々への感謝する心をもつ。 【感謝の心】

4 児童の実態

今年度当初、給食残量がとても多かった。特に、野菜や魚の残量が多く、ごちそうさまの時間がくると何も考えずに簡単に残す様子が見られた。自分が食べきれる量を配膳すること、苦手なものでも一口は食べることをルールとしたり、いただきます後、食缶に残っているものは担任がまだ食べられる児童に配ったりするなどしてクラス全体の給食の残量を減らす指導を行ってきた。

アンケートの結果から、食事や食べ物への関心が高まってきたこと、苦手なものでも頑張っ
て食べようという気持ちが育ってきていることが分かる。家庭科の調理実習前に学活「野菜を
しっかり食べよう」や林間学校でバイキング形式の食事をするを考え、「バランスの良い食
事について考えよう」という授業を栄養教諭と連携して行った。時期を見て、教科横断的に食
に関する指導を行ってきた成果であると考ええる。

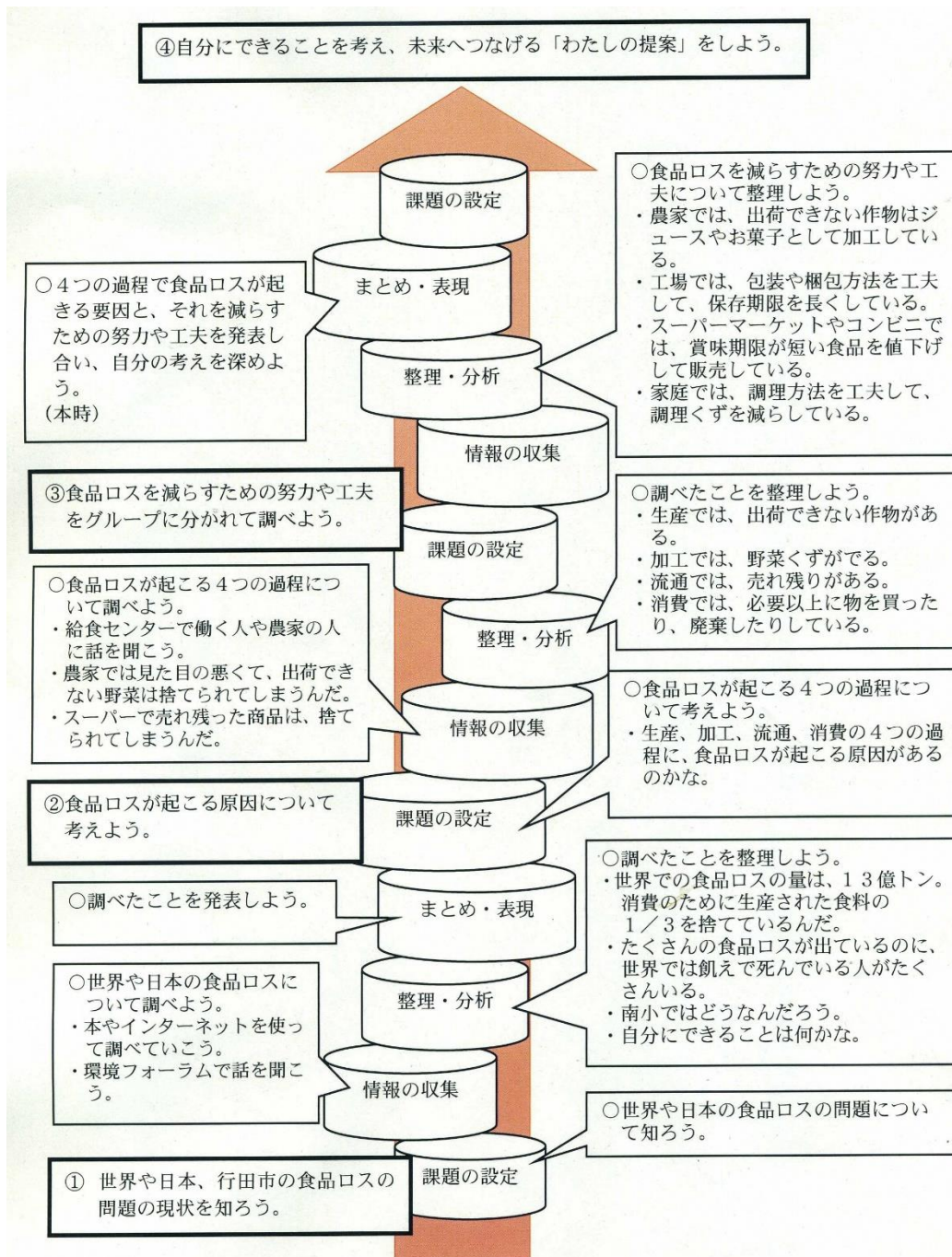
さらに、この学習で、SDGsの1つの削減目標でもある世界規模で起きている食品ロスの問題
について知り、一人一人の考え方や日常の行動と深く関わっていることに気づき、学んだこと
を自らの生活や行動に生かしてほしい。そして、食べ残しを減らし、食べ物を大切に
する子、自ら健康的な食事ができる子になってほしい。

5 教材について

食は、児童にとって身近なものである。これまでに児童たちは、家庭科で青菜やじゃがいものゆで方について知り、マイゆで野菜サラダを作った。社会科では米作りと農業、水産業、食料生産等の内容について学習している。他教科で学習したことを教科横断的に総合的な学習の時間とつなげていきたい。

食品ロスは、日本や世界の課題であるだけでなく、児童たちの身近でも起こっている課題である。食品ロスの現状や要因について調べたり、インタビューしたりするなどして収集した情報を整理し、まとめる活動を通して、自分たちの食生活が世界とつながっていること、自分たちの行動が身近な地域や世界に影響を与えていることに気付くことができると考える。

6 単元で予想される活動の流れ



7 研究主題との関わり

【研究主題】

主体的・対話的に学び合い、考えを深め合える児童の育成
 —「食べる力」＝「生きる力」食育を通して生き生きと生活できる力を育む—

【目指す児童像】

- ・ 食べることを大切にする子
- ・ 健康的な食事ができる子（バランスよく食べる子）

〈手立て1〉各教科を通して、食を大切にする指導の工夫

⇒家庭科、学活、林間学校の事前指導など、様々な教科や場面で食に関する指導を行った。

〈手立て2〉栄養教諭やゲストティーチャーを活かした専門的な指導の工夫

⇒栄養教諭やゲストティーチャーと連携した授業（環境フォーラム、みるく教室、給食センターの人の話を聞く、農家の人の話を聞く、お店にインタビューに行く）により、専門的な立場からお話を聞く場面を多く設定した。

〈手立て3〉食を身近に感じさせるための校内掲示や家庭への啓発の工夫

⇒児童たちにとって身近な「ごはん」である米が、どのように育つか知るために、特別支援学級と合同でバケツ稲の栽培を行った。

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①食品ロスの現状や要因について調査したり、身近な人にインタビューしたりするなどして収集した情報を整理し、まとめる方法が分かっている。</p> <p>②「生産」「加工」「流通」「消費」の各過程で起きる食品ロスについて、その現状や要因、それを減らす努力や工夫を理解し、自分なりに考えている。</p>	<p>①食品ロスの問題を解決するために必要な情報を、手段を選択して収集している。</p> <p>②伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p> <p>③食品ロスの問題について、課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。</p>	<p>①活動を通して、自分と食品の関わりを見直そうとしている。</p> <p>②課題解決の状況を振り返り、あきらめずに食品ロスの問題の解決に向けて取り組もうとしている。</p> <p>③食品ロスの問題の解決に向けて、友達や関係する人たちの意見や考えのよさを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p>


9 単元の指導計画・評価計画（32時間扱い）（省略）

10 本時の学習指導 (31 / 32)

(1) 目標

「生産」「加工」「流通」「消費」の各過程で起きる食品ロスについて、その現状や要因、それを減らす努力や工夫を理解し、自分なりに考えている。

(2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ○評価 (評価方法)	準備	時間
1 前時までの流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 4つの過程を提示しながら、それぞれの役割も想起させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①生産 (農業、漁業、畜産業) ②加工 (工場、給食センター) ③流通 (スーパーマーケット、コンビニエンスストア) ④消費 (家庭、レストラン) </div> 給食センターで出る食品ロスを減らす工夫を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4つの過程に分類された模造紙 	5
2 本時の活動のめあてを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 調べたことを発表し合い、自分の考えを深めよう。 </div>		
3 グループごとに発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・お店 ・スーパーマーケット ・コンビニエンスストア ・家庭 ・レストラン </div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを確認し、見通しをもって活動を行えるように学習内容を理解させる。 資料を使って、自分たちが調べた内容を分かりやすく発表するように助言する。 発表する人は、相手によく伝わるように事前に目線や声の大きさ、話す速さについて指導する。 聞く人は、発表者に体を向け、静かに聞くなどのマナーを守らせることで堂々と発表できる雰囲気をつくる。 ワークシートにメモをしながら聞くことで、自分が調べた場所との違いにも気付かせる。 各グループの発表を聞き、食品ロスについての知識を広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 発表材料 (テレビ、タブレットPC、模造紙、画用紙、写真など) 	30
4 発表したことを整理する。	<ul style="list-style-type: none"> 1グループの発表が終わるごとに発表の要点を整理し、表に見やすくまとめる。 「それぞれの場所での食品ロス」「食品ロスを減らすための工夫」の2つを表に整理する。 他のグループの発表内容と自分たちが調べたことについての知識を合わせて理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容が書かれた短冊 	
5 本時の学習のまとめと振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> グループ毎の発表を聞いて考えたことや、今後の生活に生かしていきたいことなどを中心に書くようにする。 数名の児童に発表させ、発表を聞いて感じたことを共有し、考えを深めさせる。 <p>○「生産」「加工」「流通」「消費」の各過程で起きる食品ロスについて、その現状や要因、それを減らす努力や工夫を理解し、自分なりに考えている。</p> <p style="text-align: center;">(活動の様子・ワークシート)</p>		10

